
こたつ

棒人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こたつ

【著者名】

棒人間

N9882Y

【あらすじ】

おじたを中心としたお話しです。

みかんやアイスや喧嘩やう。

ほっこりして貰えたら幸いです。
良かったら。

(前書き)

こたつと言えばみかん。

こたつに集まってみかん食べたり囁ひのせこむるものであります。

ほりじつである様な作品こしたつもつです。

「ねえねえ、みかんないの？」

小説を読んだりするとそれを取り上げて聞いて来る妹。一度手元から目を離し廊下に有つただろと答える。

「えー…、取つてきてよお。」

「せうじつのは言い出しつペがいくもんだろ。」

そう答えたのだが横で取つてきてホールをして駄々をこねるしまつ。しうがないのでじゃんけんを提案。勿論妹も乗つかつて来た。

こたつを挟んでの一本勝負。

結果は俺の勝利。

「わ、私負けたんだから兄さん取つて来てよお！」

なんともわからない無茶苦茶理論。

負けた人が取りいくべきだ。

曰く、「今のじゃんけんは男氣じゃんけんだから勝った人が行くの！」だとか。

男氣溢れるらしい俺は寒い中廊下へ。
わざわざこいたつに戻る。

冷んやりしたフローリング。

家中の中だといふのに息が白い。

こたつに入ると遅いと妹に文句を言われたのでみかん没収の刑に処あること。

悲しそうな顔になつたのでみかん解禁令発令。ぱつと嬉しそうな顔になつた。

暫く俺は読書、妹はみかんを食べるだけの簡単なお仕事に勤しむ。

「ただいまー」

弟が帰つて來た。

「おかえり。寒かつたろ? こたつ入りな。」

「ふおはへり。」

まだお仕事中の妹が何か言つてゐるが聞き取れない。
気づくと妹の前にはみかんの皮が散乱していた。

「ふー… つてあれ？！　みかん全部食つたのねーちゃん？！」

20個近くあつたみかんは妹と言つ名のブラックホールに飲まれた。

「ふあ、ふはふあんへんふよ。」

日本語で大丈夫だよ、妹。

リスの様に類袋を作つて幸せそつた妹だつた。

「ねーちゃん取つてこゝよー。全部食つたのねーちゃんじやん。」

「ほーへーひ… 公平にじやんけんでしょ。」

妹、お仕事完了。

お疲れ様です。

俺は栄を挟んで読んでいた小説をこたつの恥に置いた。
取つてこい、じやんけんだの終わりない言い争いが行われてゐる中
へ一石を投げる。

「アミダで決めようぜ。」

「「それだ！」」

2人の首がグルンと回つこちらを向く。
ここ最近で1番びびつた。

3本縦線を引き横線を適当に引く。

縦線の先に、一つと×二つを書き、紙で隠して弟、妹の順に横線を書き込ませる。

「よし、当たった奴みかんを取つてこい。良いな？」
各々から了解の返事。
では…。

結果。

妹選手の優勝です。

優勝者にはみかんを取りいく義務を贈呈です。

「可愛い妹が凍えてフルフル震えてるのに…良いの？…」

「早く戻つて来いよ。」と弟。

俺も追い討ちをかける。

「早くみかん持つて来てくれる偉い子には今度良いものあげるんだ
けどなあ。」

妹が動いた。

それも風切り音がする位の勢いで。

弟も動いた。

それもおこたが吹き飛ぶ位の勢いで。

両者ほぼ互角の戦い。

今折り返しに入った！

さあ口が離せない展開になつて來た。

最終コーナー曲がつた！

どうなるつ？！

「ゴールッ！

…おおっとー同着にみえるぞ？
勝負はビデオ判断になります…。

そうですね～…僅かに弟が勝つたかに見えますが…。

勝者は妹！

いやー、流石ですねー。

今のお気持ちを一言どうぞ！

「今度なんか奢ってね、兄さんー。」

と訳で無事みかんを手に入れ帰ってきた2人だった。

何奢りせるつもりなんだろうか。

また小説を読むのを再開した俺とみかんを食べるお仕事を再開する妹とPCでゲームをする弟でぬくぬくしていたら姉が帰ってきて来た。

「おはへひー。」

リスさん？そろそろ日本語で話さうよ。

「おかえり。」

「おかー。」

「えりー。何々?私居ない間に兄弟愛育んじゃつてんの?」

「そんな所かな。」

ふーんと言ひながら姉もこたつに入つて来る。

4人になると狭い。

だけどたまにはこんなのも良いな。

姉がこたつの上にビニール袋を置いた。
中身はカップのアイスクリームだった。

「ほら、お主ら好きなのを選べー!」

予想通り弟、妹は一つしかないチョコレート味を取り合っていた。
がるる!とか、きーきーとか色々な獣の声を楽しめる。

「姉さんワザと一つしか買わなかつたでしょ?」

そう聞きながら抹茶味を取る。

姉はニヤリとして「さあどうだか」と答えた。
因みに姉はカプチーノ味を取った。
残りは抹茶味だけだ。

どうやらチョコレート味は弟が勝ち取つたらしく。
自然界の縮図、弱肉強食がここにあつた。

「兄さん、姉さん!弟があー!」

「お、俺が勝つたんだから俺のー！」

はあ、全く…。

其処で一つ提案をする。

「半分抹茶味、半分チョコレート味にすれば二つも楽しめるやで？」
姉も便乗して言つ。

「そうだねー、そっちの方が沢山美味しいと思ひよー。」
そう言つて俺の抹茶を掠め取つて一口。
んー、美味し！とか言つてゐる。

俺にも一口寄せせ！

「ただいまー…ってあら？　こたつで寝ひやつて全くーの子達は…。」

「そう言つとこの子達の母親は4人を起こしにかかる。

「ほら、風邪ひいちゃうわよ？…全然起きないわねえ。」
少し困つた顔をしたが4人の幸せそうな顔を見て微笑んだ。

「今日は鍋にしようかしら？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9882y/>

こたつ

2011年11月29日21時46分発行